

私たちはご利用者の生活を支援するために24時間がんばります！

ローゼン Rosen だより

2023年10月号

＜発行元＞

社会福祉法人千葉県福祉援護会

〒273-0047

千葉県船橋市藤原 8-17-2

(ホムス)

<https://engokai.or.jp/>

(メール)

info@engokai.or.jp

『理事長就任のご挨拶』

このたび木村尚子前理事長の後任として、理事長を拝命しました繁田高広でございます。

使命を全うすべく、全力を尽くす所存でございますので、皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。理事長就任に当たり一言ご挨拶申し上げます。

はじめに木村尚子前理事長は理事として、また相談役として法人経営に携わっていただくことになりましたことをお知らせいたします。

さて、今の社会は変化が激しく、あらゆるものを取り巻く環境が複雑性や曖昧性を増し、想定外のことが起こり、将来の予測が困難な状態にあるとビジネスの世界では言われております。そうした変化していく環境に対しては柔軟な対応が必要と言われております。福祉事業を営んでいる私たちも同様であり、福祉ニーズや社会的ニーズの変化に柔軟に対応していかなければならないと考えております。

また、当法人の経営理念は「すべての人が心豊かに暮らすことができる社会形成に貢献します」としております。理念や行動指針に基づいた行動により、法人の持続的な発展を通じ、地域福祉の発展に貢献できるよう、障害福祉事業、高齢福祉事業、児童から高齢者を対象とした複数の相談事業、保育事業、これら事業所間の連携、組織化をより一層図ることで、ご利用者や地域の皆様にご支持をいただける福祉サービスを提供してまいります。引き続きご指導ご支援を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

令和5年10月1日 理事長 繁田高広



「S（すげえ）D（大事な）G（元気な）s（食事）」

～地域の貧困について考えよう！～

（報告：地域共生支援部 尾羽 智子）

令和4年1月、浜野町内会報の記事をきっかけに、県立生浜高校の「生浜ライト・カフェ」（生浜高校の子供食堂）と出会い、「貧困」という地域課題への取り組みを始めました。まずは食糧支援の必要性を知ってもらうきっかけづくりのため、昨年度から圏域内の小学校体育館を利用してイベントを開催しています。

今年度は生浜西小学校を会場とし、夏休み初日の7月15日に開催しました。準備期間が1か月半と短い中、17の機関・事業所が実行委員としてご協力くださいました。昨年度のテーマ「SDGs」の中から今回は「食」に絞って展示ブースを充実させ、体験ブースではお祭りのような雰囲気を出し楽しんで参加できるよう工夫しました。小学校の協力もあり、当日は参加者・スタッフ総勢166名と大盛況でした。貧困や食糧支援は、子供や高齢者、障害を持つ方など全てに共通する地域の課題です。ぜひ、「自分にもできる小さな一歩」を考えてほしいと思います。



【障害を持つ人の働く喜びのために】

新型コロナウイルスが国内で初めて確認されてから3年以上が経ちますが、この間、社会生活には様々な影響が生じたかと思います。就労等部門のオーヴェル（就労継続支援B型）においても地域のイベントがほとんど中止となり、ご利用者の作るパンやお菓子の売上が激減し、作業内容の見直しも余儀なくされました。

（令和元年度売上との比較）

令和2年度	44%減
令和3年度	32%減
令和4年度	22%減



オーヴェルは平成10年に身体障害や知的障害を持つ人たちの「働きたい」という思いをサポートする事業所として開設。以降、手作りのおいしいパンやお菓子を地域の皆様にお届けしてまいりました。以前は、オーヴェルの1階にあるレストラン「デンニッシュ」での販売や、近隣町会等の夏祭り、文化祭、こども祭り等、多くのイベントに出店させていただき、ご利用者と地域住民の皆様との貴重な交流の機会にもなっておりました。しかし、このコロナ禍で外部への販売は一部に限られ、一時期はご利用者の作業もほとんどなくなってしまうという事態となりました。ご利用者のやりがいの面にも少なからず影響があり、職員もどのように展開していくかとても悩みました。

そのような中、近隣のクリーニング店様からお声かけがあり、令和2年12月よりタオルやエプロンたたみ等の新規作業を開始しました。令和3年度からは新たな販売先として、鎌ヶ谷グリーンハイツ自治会様、管理組合理事会様のご協力のもと、ハイツ内の広場にて月2回の定期販売を実施することができ、地域住民の皆様にご協力いただき乗り切ることができたと感謝しております。

新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に変更となつてからは、感染予防対策を行いながらご利用者の出店販売の参加を再開しております。デンニッシュ売店の客足も少しずつ回復し、ありがたいことに8月の夏祭り、10月、11月の文化祭等への出店依頼をいただいております。パンやお菓子の製造を中心に作業量も戻りつつあり、ご利用者の表情からも働く喜びが感じられます。また、3年間中止としていたご利用者の研修旅行、家族懇談会も久々に開催し、ご利用者同士の交流やご家族との意見交換の機会も徐々に取り戻しつつあります。

あるご利用者が「オーヴェルのパンをお客さんが美味しそうに食べているのを見るのが一番うれしい」とおっしゃっていました。これからもおいしいパンとお菓子を地域の皆様にお届けし、ご利用者のみなさんがオーヴェルで生き生きと働くことができるよう支援してまいります。オーヴェルの出店を見かけましたらぜひお立ち寄りください。



【 誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるように 】

厚生労働省統計によれば、わが国の認知症高齢者数は、平成 24 年で 462 万人と推計されており、さらには団塊の世代が 75 歳以上となる令和 7 年には 700 万人（65 歳以上の高齢者約 5 人に 1 人が認知症）と見込まれております。そんな中、認知症になってもできる限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、ローゼンホーム上山では、認知症の人やそのご家族、地域住民、専門職の誰もが気軽に集うことができるローゼンホーム上山カフェ（認知症カフェ）を開催しております。新型コロナウイルス感染症の影響を受けてしばらく休止しておりましたが、会場の換気や消毒、参加者の体調確認等の感染対策に努めながら令和 5 年 4 月より再開しております。

開催内容としては、自分にとって大切にしたいことは何かを振り返り、その考え方を学ぶ終活、遺跡から見る地域の歴史、シルバーリハビリ体操、座って行うよさこい体操、アコーディオンの演奏と共に歌う音楽会など幅広い分野のプログラムを盛り込み、各分野の講師陣をお招きして楽しく和やかにしております。参加者もローゼンホーム上山のご入居者だけでなく、そのご家族や近隣の地域住民、関係機関の専門職など多くの方々にご来館いただいております。また市や関係機関からの情報提供や専門職による介護相談も実施しており、ご好評をいただいております。終了時のアンケートでは「船橋に来て日が浅いので、色々な話を聞いて良かった」「船橋市の歴史がわかった」「住んでいる地域のことわかって良かった」「体調不良で悩んでいたのに、様々な話が参考になった」「久しぶりに歌が歌えて楽しかった」「楽しく体を動かせた」「人とお話ができてよかった」「また次回も来たい」など、多くの感想をいただいております。

コロナ禍で外出が制限された為つい自宅に閉じこもりになり、この 3 年間で身体機能の低下や精神的にもふさぎ込んでしまった、というお声もありました。私たちは地域の方々にとっての「通いの場」「交流の場」を提供し、在宅生活に不安のある方や介護に悩んでいらっしゃるご家族にとってここが気軽に相談できる場となること、そしてこのローゼンホーム上山カフェをきっかけに、各専門職が地域の民生委員や包括支援センターと連携・協働し、地域の課題解決、やがては地域共生社会の実現に向けて取り組んでいけるよう努めてまいります。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



【地域交流活動 千葉ジェッツ選手来園】

6月8日に船橋市をホームタウンとする男子プロバスケットチーム「千葉ジェッツ」よりラシード ファラーズ選手（現・京都ハンナリーズ所属）が、社会貢献活動の一環としてローゼンかみやま保育園にご来園いただきました。ラシード選手が来園することを少し前に知らされていた子ども達は、千葉ジェッツとはどんなチームなのか？ラシード選手ってどんな人なんだろう？と、保育者と一緒に調べ、ドキドキワクワクしながら来園を心待ちにしていました。3歳児クラスでは、佐藤卓磨選手（現・名古屋ダイヤモンドドルフィンズ所属）が制作した絵本「ぼくはキリン」を読み聞かせしていただきました。4歳児クラスでは、ラシード選手のルーツがあるパキスタンの国旗の塗り絵と旗作りをしました。5歳児クラスでは、転がしドッジボールや英語の手遊びを一緒に楽しみ、存分に体を動かしました。どのクラスの活動でも、ラシード選手の明るい笑顔と優しい眼差しに釘付けの子ども達でした。ラシード選手のように大きくなるにはどうしたら良いか？との子ども達からの質問には①好き嫌いせずたくさん食べること②たくさん寝ること③お父さん、お母さんのお話を良く聞くこと、と教えていただきました。子ども達の心にはどんなことが残っているのでしょうか？



この交流によって子ども達は「バスケットボール」というスポーツや、ラシード選手のルーツである「パキスタン」という国が世界にあることを知り、興味関心が広がる機会となりました。来園後は、バスケットゴールに見立てた的にボールを投げて点数を競って遊ぶ姿が見られたり、TVでバスケットの試合を観た、と教えてくれたりする子がいたり、バスケットボール熱が続いています。

今回の交流は、子ども達にとっては何事にも代えがたい貴重な経験となりました。これからも地域と密な連携を図りながら、子ども達の生活がより充実したものとなるようにしていきたいと思えます。

令和4年度分 苦情解決状況の公表（第三者委員の介入があった苦情の実績）

	(事業所名)	(内容・種別)	(発生日)	(解決日)
①		※令和4年度は、第三者委員が介入した苦情はございません。		

令和4・5年度 ご寄付・ご祝儀一覧

令和5年3月1日～令和5年8月31日に法人各施設にご寄付及びご祝儀をいただきました皆様です。ありがとうございました。

※事前にご承諾いただきました方のお名前を掲載させていただいております。そのほか5名様にご寄付いただいております。

ご寄付いただきました全ての皆様に御礼申し上げます。

ご寄附	ご祝儀	ご寄贈	ご寄贈	協賛品ご提供
—	松本 勇治 様	飯島 和男 様	—	—
（ 順 不 同 ）				

